●バッテリーを正しく管理しよう

なぜ？。。。

一般的に、農業機械は作業する季節しか使われないので、
バッテリーの管理が不充分になりがちです。このことが原因で
時折事故が発生します。正しく管理しましょう。

ヒヤリ、事故

1. バッテリー液補給時に端子のねじと側にあったスパナが接触し、爆発した。
2. バッテリー充電中に、爆発して硫酸や金属の破片により両目を負傷した。
3. コンバインのバッテリーを交換しようとしたところ、手が滑って足に落した。

そこで・・・

対策ポイント

1. バッテリーの交換

・工具の置き忘れに注意します。
・端子が機械に触れないようにします。

2. バッテリーの保守・点検

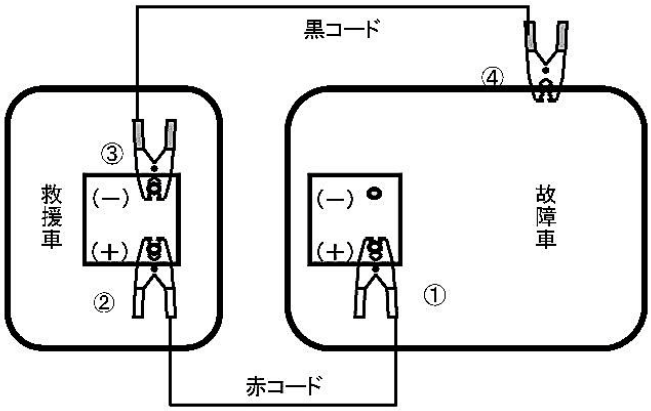
・バッテリーの液面がUPPERとLOWERの間にあることを確認します。
・LOWER以下での使用は危険です。
LOWERに近い場合は補水します。

・補水液は精製水以外は入れません。
・UPPER以上まで補水しないで下さい。

・バッテリーの清掃は水で濡らした布で清掃します。
・バッテリー取付金具・端子の取付が緩んでいないか確認します。

3. バッテリーが上がった時は・・・

1）ブースターケーブルの使用



・④の接続はバッテリーから離れたエンジン本体・フレームに接続します。

2）充電器による補充電

・充電器添付の取扱説明書に従い、正しい手順で行います。
・保管中でも自己放電しますので、各バッテリーの取扱説明書に従い、定期的に補充電を行ってください。
・充電中は液口栓を開けておきます。
・充電の際は室内を換気してください。
・バッテリーは使用に伴い、容量が徐々に低下します。補充電を行っても性能が回復しないものは寿命です。

さらに！

追加のヒント

⚠危　険

1．火気を近づけない。
（バッテリーから水素ガスが発生するので、引火爆発の原因となります。）
2．密閉された場所で使用しない。（引火爆発の原因となります。）
3．バッテリー液は希硫酸なので、取扱いに注意する。
（目に入ると失明、皮膚に付くとやけどする恐れがあります。衣服や器物に付くと損傷する恐れがあります。付着した場合には、多量の水で洗い流します。取扱い時は保護メガネ、ゴム手袋を着用します。）

⚠警　告

1．バッテリーを乾いた布などで清掃しない。
（静電気による引火爆発の原因になる恐れがあります。）
2．バッテリーの液口栓の排気孔はふさがない。
（破裂の原因になる恐れがあります。）
3．さかさま・横倒し・傾け、落下や衝撃禁止。
（バッテリー液で失明ややけど、衣服損傷の原因になる恐れがあります。）

⚠注　意

1．バッテリーへは補充液（精製水）以外は入れない。
（不純物を入れた場合、発熱、発火、有毒ガス発生の原因になる恐れがあります。）
2．バッテリーに直接電気機器を接続しない。
（配線が焼損し車両火災の原因になる恐れがあります。）
3．使用済みバッテリーはそのまま廃棄しない。
（そのままにすると、事故の原因になる恐れがあります。新しいバッテリを購入された販売店に処理を依頼します。）